

厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）
「公衆衛生医師の確保に係る自治体と地域の大学との連携及び自治体における
インターンシップ事業推進のための研究」
令和7年度 分担研究報告書

研究成果の公表の場における意見交換
（公衆衛生医師の魅力を伝える実習・インターンシップを大学と自治体と一緒に考える）

研究分担者 大澤 絵里 国立保健医療科学院 公衆衛生政策研究部

研究要旨

目的

公衆衛生に関わる学生実習や公衆衛生医師インターンシップのプログラムや内容の現状、求められる研修プログラムや内容を明らかにし、自治体における実習や公衆衛生医師インターンシップ事業のプログラム例の作成にむけ、基礎資料を得ることを目的とした。

方法

第84回日本公衆衛生学会総会にて、「公衆衛生医師の魅力を伝える実習・インターンシップを大学と自治体と一緒に考える」と題して、自由集会を実施した。自由集会参加者で、現場、大学が考える学生や若手医師が経験している実習プログラムや内容の現状と理想について意見交換を行い、発言記録を基にテキストマイニング、ネットワーク分析を実施した。

結果・考察

意見交換の論点として、保健所グループは、「どんな業務や事業を実習生に見学をさせたことがあるか」、大学グループは、「どんな風の実習をしているか（させているか）」という点での議論となった。現状では、感染症対応、食中毒対応、災害対応、精神保健事業があげられた。また、現状の実習方法や内容では、保健所での実習受け入れ、実習内容に限界があることがわかった。理想的なプログラム・内容では、共通して「データ分析」「学生本人が興味をもつ分野」「感染症対策」があげられた。さらに、保健所が理想とする内容として、「調整」「準備」「実際の業務」など日々の実務があがったが、大学により実習の期間が短期間であり、保健所実習の期間をどのように確保できるかが、課題と考えられた。

結論

結果より、感染症対策はもとより、今後はデータ分析や個人のニーズに合わせた実習やインターンシッププログラム作成が考えられることが示唆された。実習やインターンシップが充実したものになるためには、大学と保健所との常日頃の情報交換や連携が必要と考える。

研究分担者

内田 満夫 群馬大学大学院医学系研究科数理データ科学講座

佐々木由理	国立保健医療科学院公衆衛生政策研究部
杉山 雄大	国立健康危機管理研究機構国立国際医療研究所糖尿病情報センター
野村 恭子	秋田大学学医学系研究科衛生学公衆衛生学講座
平本 恵子	広島県西部保健所
藤井 仁	目白大学 看護学部
横山 勝教	香川県中讃保健福祉事務所

研究協力者

浅沼 一成	国立保健医療科学院
菊地 省大	東京都健康安全研究センター
定金 敦子	島根大学医学部環境保健医学講座
高橋 千香	東京都世田谷保健所
藤井 俊吾	島根県県央保健所
町田 宗仁	国立保健医療科学院公衆衛生政策研究部
吉村 健佑	千葉大学附属病院次世代医療構想センター
渡 三佳	国立保健医療科学院公衆衛生政策研究部

A. 研究目的

公衆衛生に関わる学生実習や公衆衛生医師インターンシップのプログラムや内容の現状、求められる研修プログラムや内容を明らかにし、自治体における実習や公衆衛生医師インターンシップ事業のプログラム例の作成にむけ、基礎資料を得ることを目的とした。

B. 研究方法

(1) 情報収集方法および研究対象者

第 84 回日本公衆衛生学会総会にて、「公衆衛生医師の魅力を伝える実習・インターンシップを大学と自治体と一緒に考える」と題して、自由集会を実施した（2025 年 10 月 30 日(木) 18:00～20:00 @静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」地下会議室）。自由集会参加者は、保健所および臨床の医師 7 名、大学教育 6 名、厚労省 5 名。自由集会の中で、先に保健所グループと大学グループにわかれて、グループワークで意見交換を行い、次いで全員で意見交換を行った。

(2) 情報収集の内容

- ①現場が考える学生や若手医師に経験している内容やプログラムの現状
- ②現場考える理想的なプログラムや内容
- ③大学側考える学生が経験している実習内容やプログラム現状
- ④大学が考える理想的なプログラムや内容

(3) 分析方法

テキストマイニングを実施した。意見交換の情報は、グループワーク時の記録、メモ、および意見交換の録音を逐語録化し、一つ一つの意見や単語をエクセルにてリスト化し、データセットを作成した。その後、KHCoder 3.03a Official Package(Screen Advanced System Solution Co., Ltd.)を用いて、共起ネットワーク分析を行った。「現状：実際のプログラム・内容」「理想：理想的なプログラム・内容」に分けて、保健所

グループと大学グループの相違をみるために、上記の①、③は「現状」についての議論として、②、④は「理想」についての議論として扱った。単語同士の相関係数には、Jaccard 指標を用いた。

(4) 倫理面の配慮

本自由集会の実施に当たっては研究分担者以外の討議参加者と当日参加の参加者から、協力同意書により調査の意義や目的、結果の公表について事前に説明し、成果物の公表について同意を得ている。研究代表者、研究分担者以外の個人の特定につながる情報は公表されない。

C. 研究結果

(1) 分析対象の参加者

保健所グループ 7 名、大学グループ 6 名、合計 13 名からの発言記録を分析対象とした。

(2) 現状：実際のプログラム・内容

「現状」についての議論では、409 の語が抽出された。その中で、最低でも 2 回の出現があった単語を選択し、それぞれの語とグループにおける Jaccard 係数が上位 60 位までを分析対象の語とした。下記の 4 つの図表で結果を示した。

図 1：「現状：実際のプログラム・内容」に関する語の共起ネットワーク図

表 1：「現状：実際のプログラム・内容」のグループ別の共通した語の出現文脈

表 2：保健所グループのみに関連があった「現状：実際のプログラム・内容」の語の出現文脈

表 3：大学グループのみに関連があった現状：実際のプログラム・内容」の語の出現文脈 (Jaccard 係数が 0.1 以上の語)

図 1 で示すように、グループで比較すると大学グループで、比較的多くの語が出現していた。「現状：実際のプログラム・内容」での議論の中で、2 グループに共通して出現したグループと相関が高い語は、「見学」「事業」「保健所」「データ」「調査」「実習」の 6 つであった。保健所グループ特有の語は 3 語、大学グループ特有の語は 14 語であった。

表 1 は、保健所グループと大学グループにおいて、「現状：実際のプログラム・内容」での議論の中で共通して出現したグループと相関が高い 6 つの語の、グループ別の出現文脈である。全体的に、保健所グループは、「どんな業務や事業を実習生に見学をさせたことがあるか」という議論であり、大学グループは、「どんな風に実習をしているか (させているか)」の議論であった。「保健所」の語の両グループの文脈から、現状、保健所での実習受け入れ、実習内容に限界があることがわかった。

表 2 で示すように、保健所グループで特徴的であった語は「対応」「精神」「業務」という語の出現文脈から、保健所では、感染症対応、食中毒対応、災害対応、精神保健事業、保健所業務外 (介護認定調査) を実習生に経験してもらっているが、経験させられる業務に差があることも事実であることがわかった。

表 3 では、医学部の何年生で公衆衛生実習にいつているのか、公衆衛生実習として、

保健所だけではなく厚労省のインターンも含んでいる大学もあること、実習は数人のグループで実施していること、一部の学生が保健所実習を行っている大学もあること、保健所は受け入れが少なく、公衆衛生実習は体系化されていないという認識があること、データ分析ができると学生の満足度が高いこと、個人情報保護がありデータや情報に触れることが難しいこと、等の実習・インターンシップに関する意見交換があった。このほか、大学が関わっている地域枠医学生の卒業後の自治体における扱いに関する話題も話し合われた。

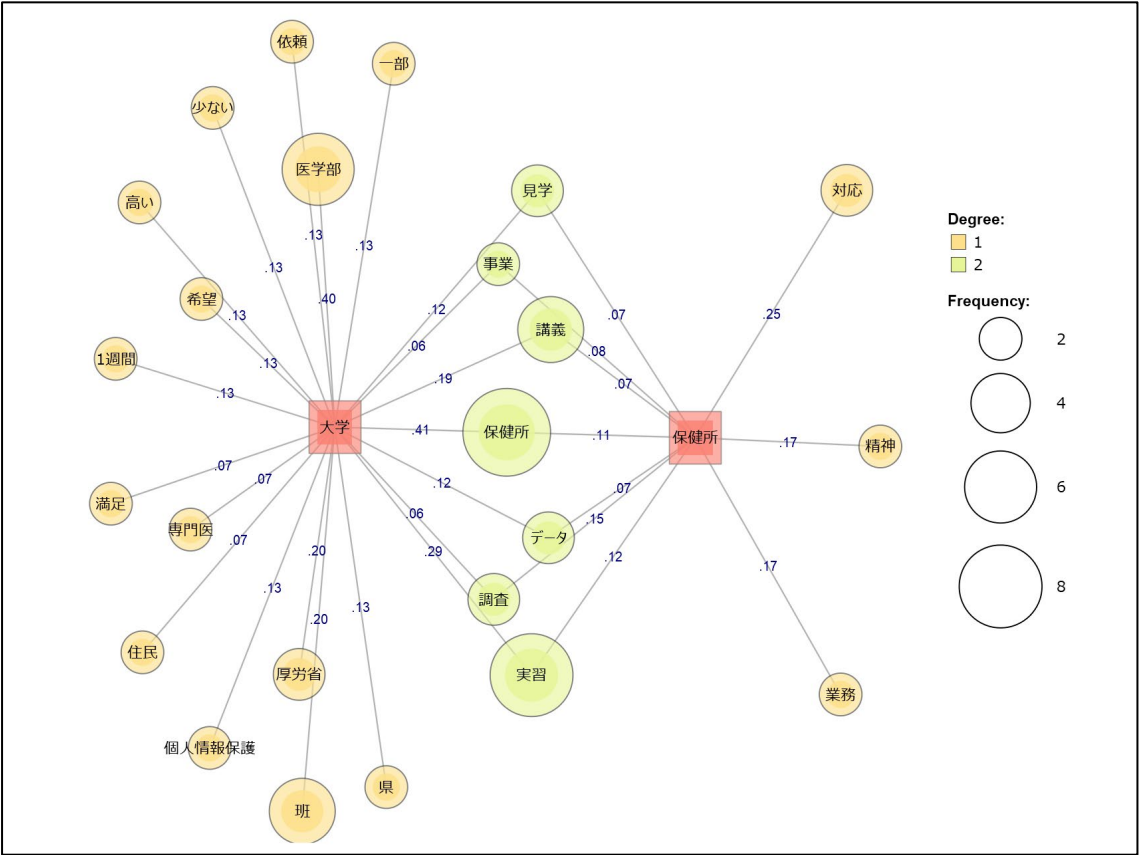


図1 「現状：実際のプログラム・内容」に関する語の共起ネットワーク

表1 「現状：実際のプログラム・内容」のグループ別の共通した語の出現文脈

語	グループ	文脈（生データ）
見学	保健所 G	コロナ臨時接種の会場の <u>見学</u>
	大学 G	系統の講義の後に半日 <u>見学</u> 保健所は受け入れが少なく、 <u>見学</u> 座学が多く、満足度が低い。
事業	保健所 G	精神保健事業（の実習）
	大学 G	厚労省の別の事業で調査をしたが、地域枠の義務履行として保健所勤務を認める県あり。
保健所	保健所 G	<u>保健所</u> 業務ではないが、介護認定の調査 <u>保健所</u> により経験させられる業務に差
	大学 G	県型保健所と <u>保健所</u> 設置市で実習が1日。講義のみ。これ以上増やせない。 1人ずつ1週間。うち10人が <u>保健所</u> を選択 テーマは所長が決定を依頼。一部が <u>保健所</u> へ、臨床の講義のみ <u>保健所</u> は受入れ少なく、見学座学多く、満足度低い。 実習先に、 <u>保健所</u> は含まれず 研修医2年目地域医療での <u>保健所</u> 研修 地域枠の義務履行として保健所勤務を認める県あり。
データ	保健所 G	クラスター調査、データ整理、結核診査協議会と資料作成
	大学 G	地方衛生研究所は <u>データ</u> 分析などで満足度高い、 住民の <u>データ</u> を扱うときに直接は見られない
調査	保健所 G	クラスター <u>調査</u> 、データ整理、結核診査協議会と資料作成 <u>保健所</u> 業務ではないが介護認定調査
	大学 G	厚労省の別の事業で <u>調査</u> をしたが、地域枠の義務履行として保健所勤務を認める県あり。
実習	保健所 G	訪問、精神、母子、熱心な <u>実習</u> 生のみ 個人用防護具着脱 <u>実習</u>
	大学 G	県型保健所と <u>保健所</u> 設置市で <u>実習</u> が1日 4～5人の2～3班で <u>実習</u> <u>実習</u> 先で、服装や態度に対して厳しい 公衆衛生の講義後に <u>実習</u> 。 希望があれば、4週間 <u>実習</u> できる 実習先に、 <u>保健所</u> は含まれず

表2 保健所グループ「現状：実際のプログラム・内容」の議論の中で、特徴的であった語の出現文脈

語	文脈（生データ）
対応	感染症 <u>対応</u> 、クラスター調査、データ整理、結核診査協議会と資料作成 食品衛生、監視同行、食中毒 <u>対応</u> 災害 <u>対応</u> 、訓練、アクションカード
精神	<u>精神</u> 保健事業 訪問、精神、母子、熱心な実習生のみ
業務	保健所 <u>業務</u> ではないが介護認定調査 保健所により経験させられる業務に差

表3 大学グループ「現状：実際のプログラム・内容」の議論の中で、特徴的であった語の出現文脈

語	文脈（生データ）
医学部	医学部 3 年に県型保健所と保健所設置市で実習が 1 日 医学部 4 年の一部が、1 週間 4～5 人の 2～3 班で実習。 医学部 3 年で系統講義 その後半日見学。 医学部 5 年の全員。1 人ずつ 1 週間。うち 10 人が保健所を選択 医学部 3 年で公衆衛生の講義後に実習。 医学部 6 年で実施。保健所は受入れ少なく、見学座学多く、満足度低い。
厚労省	インターンシップ希望もあり、厚労省に依頼している。 厚労省もある。希望があれば、4 週間実習できる。 厚労省の別の事業で調査をしたが、地域枠の義務履行として保健所勤務を認める県あり。
班	4～5 人の 2～3 班で実習。 10 人の班を 2 班。 1 班 5～7 人を 3 班で 1 日。
一部	医学部 4 年の一部が、1 週間 4～5 人の 2～3 班で実習。 一部が保健所へ、臨床の講義のみ
依頼	厚労省に依頼している テーマは所長が決定を依頼
少ない	保健所は受入れ少なく 情報少ない。体系化されていない。
高い	地方衛生研究所はデータ分析などで満足度高い 個人情報保護の壁が非常に高く
希望	インターンシップ希望もあり、厚労省に依頼している 希望があれば、4 週間実習できる
1 週間	医学部 4 年の一部が、1 週間 4～5 人の 2～3 班で実習 医学部 5 年の全員。1 人ずつ 1 週間。
個人情報保護	自治体によっては個人情報保護厳格でないところも。 個人情報保護の壁が非常に高く
県	地域枠の義務履行として保健所勤務を認める県あり。 診療は継続できますよということを明確に謳っている県もある。

(3) 理想：理想的なプログラム・内容

「理想のプログラム・内容」は、総抽出語数 810 語のうち、同じく、最低でも 2 回の出現があった語を選択し、それぞれの語とグループにおける Jaccard 指標が上位 60 位までを分析対象とした。下記の 4 つの図表で結果を示した。

図 2：「理想：理想的なプログラム・内容」に関する語の共起ネットワーク

表 4：「理想：理想的なプログラム・内容」のグループ別の共通した語の出現文脈

表 5：保健所グループのみに関連があった「理想：理想的なプログラム・内容」の語の出現文脈

表 6：大学グループのみに関連があった「理想：理想的なプログラム・内容」の語の出現文脈（Jaccard 係数が 0.1 以上の語）

図 2 では、「理想：理想的なプログラム・内容」は、「現状」に比べて、多くの語が 2 グループに共通しており、各グループに相関のある語の種類も「現状」に比べて多かった。2 グループに共通して出現したグループと相関が高い語は、15 語あり、「分析」「経験」「県」「臨床」「インターンシップ」「ネットワーク」「実習」「公衆衛生医師」「行政」「本庁」「医師」「分野」「事務」「感染症」「保健所医師」であった。

表 4 で示すように、全体的に、保健所グループは、「どんな業務や事業を実習生に経験させるとよいか、経験させたいか」という議論であり、大学グループは、「どんな風に実習をさせたいか」、また「公衆衛生医師の働き方」までに議論が及んだ。両グループの文脈から、学生の関心に合わせた実習経験をさせたい、実際の業務や実務を学生にも経験させたいという点が、共通として理想的なプログラムや内容であることがわかった。

表 5 では、保健所グループは、データ分析で地域を理解すること、保健所医師が日常やっている業務のできるだけ近いものであり、その内容は事業の実施だけではなく、資料作成や外部関係者との調整も含まれた。また実習生個人の関心がある事業を体験させたいとの意見も聞かれた。

表 6 では、学生に実務を経験させたい、学生が関心をもつ分野について経験させたい、という理想的な内容が聞かれたと同時に、学生や若手医師が公衆衛生に魅力をもてるようなしくみ作りの議論にもおよび、人事交流、診療の継続、厚労省などにいる他公衆衛生医師とのオンラインでのつながりなどの意見も聞かれた。

図2 「理想：理想的なプログラム・内容」に関する語の共起ネットワーク

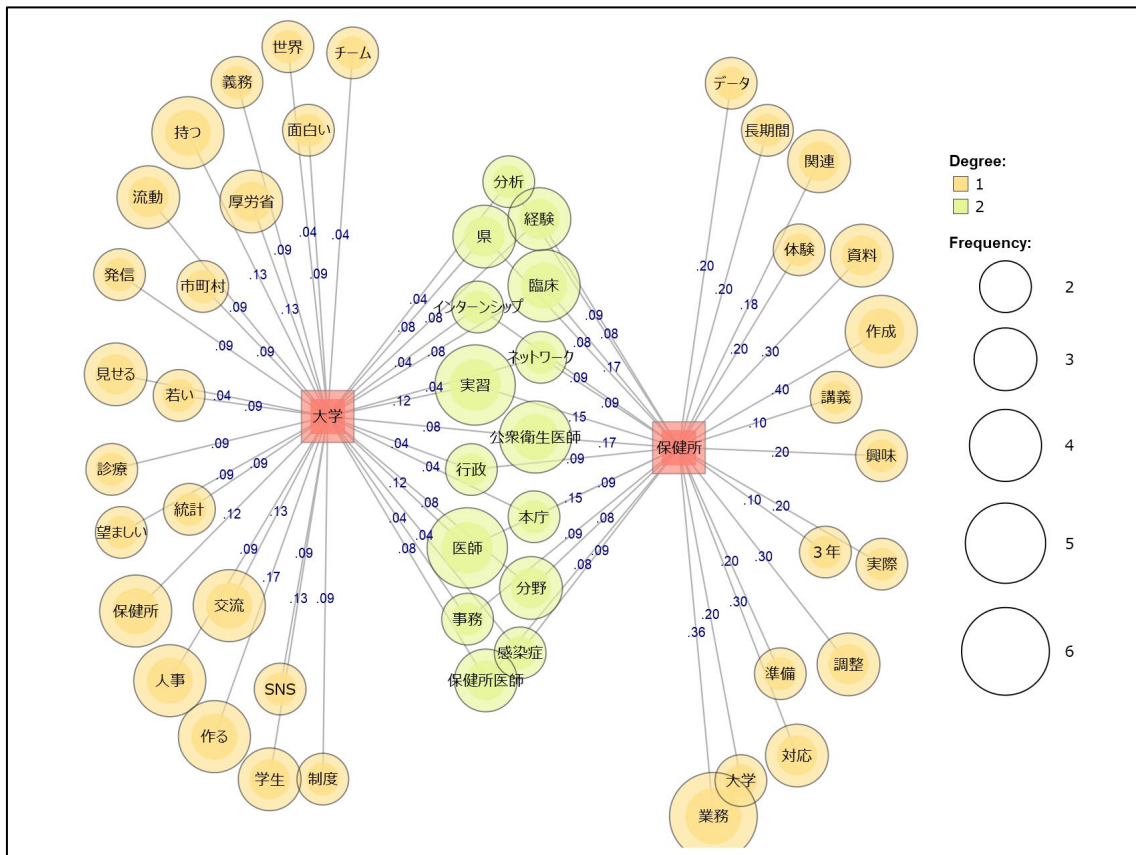


表4 「理想：理想的なプログラム・内容」のグループ別の共通した語の出現文脈

語	グループ	文脈（生データ）
分析	保健所 G	地域診断、圏域ごとの特色、データ分析
	大学 G	中には、衛生研究所に送り込んで、分析をして楽しく。
経験	保健所 G	長期間であればいろいろ経験させられる
	大学 G	保健所、市町村での実習経験が公衆衛生医師志望の関連ある程度の臨床経験を <u>して</u> いて望ましい、と帰ってこれるといい
県	保健所 G	県・市・中核市・検疫所・大学、研修会、官学連携の状況
	大学 G	県と設置市の人事交流など。もっと組織の柔軟性、流動性が必要 XX 県だって 20 名いない。
臨床	保健所 G	興味のあることや臨床業務に関係のある業務 その医師の臨床分野に関連ある業務を見学・体験させること
	大学 G	臨床よりか待遇よいことをアピールしては ある程度の臨床経験を <u>して</u> いて望ましい
インターンシップ	保健所 G	その医師の臨床分野に関連ある業務を見学・体験させることでより充実した実習・インターンシップになる
	大学 G	厚労省運用指針改訂されれば、 <u>インターンシップ</u> 受けるように勧めたい
ネットワーク	保健所 G	公衆衛生医師ネットワーク
	大学 G	相談体制、ネットワークのための働き方を。例えば、所長会の仕事を公務として認められるとよい。
実習	保健所 G	3 年生実習は保健所医師の業務に関連したシナリオ作成し実際に体験し、グループワーク その医師の臨床分野に関連ある業務を見学・体験させることでより充実した実習・インターンシップになる
	大学 G	個人情報保護を理由とした実習の制限ないとよい。 保健所、市町村での実習経験が、公衆衛生医師志望に関連統計、制度、感染症などの学生が関心持つ分野の <u>実習</u> プログラムを作れるとよい。
公衆衛生医師	保健所 G	大学講義の準備、1 年生は公衆衛生医師とは、3 年生は公衆衛生行政 公衆衛生医師ネットワーク
	大学 G	保健所、市町村での実習経験が、公衆衛生医師志望に関連本庁で、公衆衛生医師の担当業務がみえるよう
行政	保健所 G	大学講義の準備、1 年生は公衆衛生医師とは、3 年生は公衆衛生行政
	大学 G	保健所って行政体の特性上全ての分野を均等に見せようとする。つまらないところも見せようとする、ちゃんと面白いと

		ころをダイジェスト版にして見せて、そこは編集していただくことも必要。
本庁	保健所 G	本庁と保健所との調整、電話対応など
	大学 G	特に本庁で、公衆衛生医師の担当業務がみえるよう
医師	保健所 G	会議の準備、進行、資料作成、医師会や県庁との調整 その医師の臨床分野に関連ある業務を見学・体験
	大学 G	医師は守秘義務が一方かかっているのが解放してほしいのと、学生も何か一筆書くとか実務にどんどん食い込ませてほしい 医師のキャラクターとして、ロジ能力高い意志が向いている 医師人事について、硬直的だったり、閉鎖的。流動性が必要。県と設置市の人事交流など。もっと組織の柔軟性、流動性が必要
分野	保健所 G	その医師の臨床分野に関連ある業務を見学・体験
	大学 G	統計、制度、感染症などの学生が関心持つ分野の実習プログラムを作れるとよい。 保健所って行政体の特性上全ての分野を均等に見せようとする。つまらないところも見せようとする、ちゃんと面白いところをダイジェスト版にして見せて、そこは編集していただくことも必要。
事務	保健所 G	実際の業務、メール、文書起案・決裁、事務連絡などの資料作成
	大学 G	専門医、診療継続可の明確化。事務からの反対見込まれる
感染症	保健所 G	感染症対応、タイミングがあれば実際の調査、データ整理
	大学 G	統計、制度、感染症などの学生が関心持つ分野の実習プログラムを作れるとよい。
保健所医師	保健所 G	3年生実習は保健所医師の業務に関連したシナリオ作成し実際に体験しグループワーク
	大学 G	保健所医師の孤独が学生に伝わってはダメ 保健所医師人数が都道府県では多くない。

表 5 保健所グループ「理想：理想的なプログラム・内容」の議論の中で、特徴的であった語の出現文脈

語	文脈（生データ）
データ	実際の調査、 <u>データ</u> 整理 地区診断、圏域ごとの特色、 <u>データ</u> 分析
長期間	期間が様々で <u>長期間</u> であればいろいろ経験させられる 長期間の場合は事前に調整し興味のあること
関連	保健所医師の業務に関連したシナリオ作成 その医師の臨床分野に <u>関連</u> ある業務を見学・体験 保健所、市町村での実習経験が、公衆衛生医師志望に関連
体験	シナリオ作成し実際に <u>体験</u> しグループワーク その医師の臨床分野に <u>関連</u> ある業務を見学・体験
資料	災害対応、訓練の計画、 <u>資料</u> 作成 会議の準備、進行、 <u>資料</u> 作成、医師会や県庁との調整 実際の業務、メール、文書起案・決裁、事務連絡などの資料作成
作成	災害対応、訓練の計画、 <u>資料</u> 作成 会議の準備、進行、 <u>資料</u> 作成、医師会や県庁との調整 事務連絡などの資料作成 業務に関連したシナリオ <u>作成</u>
講義	大学 <u>講義</u> の準備 MPH の講義はケーススタディなど
興味	<u>興味</u> のあることや臨床業務に関係のある業務 事前に調整し <u>興味</u> のあること
3 年	<u>3 年生</u> は公衆衛生行政 <u>3 年生</u> 実習は保健所医師の業務に関連したシナリオ作成し実際に <u>体験</u> し、グループワーク
実際	感染症対応、タイミングがあれば <u>実際</u> の調査、 <u>データ</u> 整理 <u>実際</u> の業務、メール、文書起案・決裁 実際に <u>体験</u> しグループワーク
調整	医師会や県庁との <u>調整</u> 本庁と保健所との <u>調整</u> 長期間の場合は事前に <u>調整</u>
準備	会議の <u>準備</u> 大学講義の <u>準備</u>
対応	感染症 <u>対応</u> 災害 <u>対応</u> 電話対応など
大学	大学講義の <u>準備</u> 県・市・中核市・検疫所・大学、研修会、官学連携の状況
業務	臨床業務に関係のある業務 実際の業務

	<u>保健所医師の業務</u> その医師の臨床分野に関連ある <u>業務</u> 本庁で、公衆衛生医師の担当業務
--	--

表6 大学グループ「理想：理想的なプログラム・内容」の議論の中で、特徴的であった語の出現文脈

語	文脈（生データ）
厚労省	<u>厚労省運用指針改訂</u> されれば、インターンシップ受けるように勧めたい 専門医、診療継続可の明確化 事務からの反対見込まれる、 <u>厚労省</u> からのサポート必要 一人配置の解消、Web ミーティングの機会を作る。例えば、 <u>厚労省</u> 出向者のオンラインランチ会
持つ	学生が <u>関心持つ分野</u> （臨床経験） <u>持っていない人</u> 困るから、これからの人は <u>持ってもいいの</u> かなと思う 保険診療に最近、疑問を持つ若い人がある
保健所	本庁と <u>保健所</u> との調整、電話対応など <u>保健所</u> 、市町村での実習経験が、公衆衛生医師志望に関連 <u>保健所</u> って行政体の特性上全ての分野を均等に見せようとする <u>保健所</u> で医者をやる人事交流制度
交流	人事 <u>交流</u> を作るべき 県と設置市の人事 <u>交流</u> など 保健所医者をやる人事 <u>交流</u> 制度 他県との <u>交流</u> ができる
作る	人事交流を <u>作る</u> べき Web ミーティングの <u>機会</u> を作る 面白かったらそのままという道も <u>作ってもいいのでは</u> 。 嫌な人がいたらかわせるような職場を <u>作った</u> 方が、若い人はよいのでは
学生	<u>学生</u> が <u>関心持つ分野</u> <u>学生</u> も何か一筆書くとか実務にどんどん食い込ませてほしい。 保健所医師の孤独が <u>学生</u> に伝わってはダメ。

D.考察

本報告では、日本公衆衛生学会総会にて、「公衆衛生医師の魅力を伝える実習・インターンシップを大学と自治体が一緒に考える」と題して実施した自由集会において、学生や若手医師が経験している実習やインターンシップの現状と理想を、現場、大学からの視点で分析を行った。主に、学生実習を想定した発言が多かったが、全体的に、現場の保健所側は、保健所のどの業務、何の業務を学生や若手医師が経験しているか、また学生や若手医師に経験させたいかという視点で研修プログラムや内容を考えていた。一方で、大学側は、保健所でどのような方法で実習をしているか、また、実習させたいかが論点であった。論点の違いの理由として、保健所では、日々の事業や業務を中心にし、実習として経験させられるもの、また、今後、経験させたいものからプログラムや内容を考えており、大学では、保健所実習は公衆衛生実習のひとつの構成要素であり、他の実習先で経験できることと比較しながら、保健所実習の位置づけを考えていることが理由の一つとして考えられる。

理想的なプログラム・内容では、共通した語で、かつ文脈の中でも両グループが類似しているものをみると、「データ分析」「学生本人が興味をもつ分野」「感染症対策」があり、これらは、出現する語は異なるものの、各グループ特徴的な語や文脈にも同じような意味ででてくる内容である。大学も保健所も、データヘルス計画や地域医療計画などデータ分析によるエビデンスを基にした公衆衛生政策の推進に関連した業務に、学生や若手医師に関与させたいという思いがあると理解できる。そして、全学生が、保健所実習が必須でないとすれば、学生や若手医師個々のニーズに合わせたテイラーメイドの実習内容を組み立てることも、学生だけではなく、保健所側も大学側も、実習やインターンシップ実施に対して満足感や充実感を向上させることができる一手ではないかと考える。「感染症対策」については、COVID19 以前より保健所の業務であったものの、COVID19 の流行により、保健所が感染症対策の現場であることが明確になったこともあり、両方で経験させたい分野となったと考えられる。さらに、保健所が理想とする内容として、「調整」「準備」「実際の業務」など日々の実務を経験させたいと考えているが、大学により実習の期間が短期間であり、保健所実習の期間をどのように確保できるかが、課題と考えられた。保健所における公衆衛生実習やインターンシップが、大学の隣地実習やインターンシップ全体の中で、どのような目的をもった位置づけであるか、常日頃より、学生や若手医師を送り出す大学と、受け入れる保健所との情報交換、連携が重要となるだろう。

E.結論

学生や若手医師を対象とした今後の公衆衛生実習やインターンシップの内容として、望まれている保健所業務は、「感染症対策」、エビデンスづくりや事業評価につながる「データ分析」の経験、また個人のニーズに合わせテイラーメイドする実習やインターンシッププログラム作成が考えられることが示唆された。実習やインターンシップが充実したものになるためには、こうした情報を、企画する側の大学と保健所との常日頃の情報交換や連携が必要と考える。

F.文献

なし

G.研究発表

1.論文発表

なし

2.学会発表

1. 第 85 回日本公衆衛生学会総会において発表予定

H.知的財産権の出願・登録状況

なし

【参考】自由集会当日の案内



10月31日(金) 14:10～14:50 第17会場(展示ギャラリー1～3)		
座長: 和泉比佐子(神戸大学大学院保健学研究科)		
PA-15-02-1	平本 恵子	(広島県西部厚生環境事務所・保健所) 公衆衛生医師確保に係るインターンシップに関する研究<自治体と医師編>第1報
PA-15-02-2	横山 勝教	(香川県中讃保健所) 公衆衛生医師確保に係るインターンシップに関する研究<自治体と医師編>第2報
PA-15-02-3	名越 究	(島根大学医学部) 公衆衛生医師確保に係るインターンシップに関する研究<大学と医学生編>第1報
PA-15-02-4	藤井 仁	(目白大学) 公衆衛生医師確保に係るインターンシップに関する研究<大学と医学生編>第2報
PA-15-02-5	野村 基子	(秋田大学医学部衛生学公衆衛生学) 公衆衛生医師確保に係るインターンシップに関する研究<大学と医学生編>第3報

第84回 日本公衆衛生学会総会 自由集会33

公衆衛生医師の魅力を伝える
実習・インターンシップを
大学と自治体と一緒に考える

日時: 2025年10月30日(木) 18:00～20:00

会場: グランシップ練習室2(B1F)

世話人: 国立保健医療科学院 大澤絵里

公衆衛生医師リクルートのために、
インターンシップ企画してみませんか？



本自由集会は、令和6・7年度 厚生労働科学研究費補助金(健康安全・危機管理対策総合研究事業)
「公衆衛生医師の確保に係る自治体と地域の大学との連携及び自治体におけるインターンシップ事業推進のための研究(研究代表者: 島根大学医学部 環境保健医学講座 名越 究)」の一環として実施します。